



死の前、 「意識がはっきりする時間」 の謎にせまる

「終末期明晰」から読み解く生と死とそのはざま

アレクサンダー・バティアーニ＝著、三輪美矢子＝訳

定価2530円（本体2300円＋税10%）

KADOKAWA ☎0570-002-301

認知症や神経障害により何もかも忘れたかに見えた人が、終末期に突然自分を取り戻す“奇跡”。認知科学者でもある著者が、この現象についての研究を発表すると、世界中の家族や医療現場から「私も経験した」という声が届いた。病によって破壊されたのは精神生理学的な有機体だけで、人格は残っているということなのか。自己と人格性と脳機能の関係における正反対の考えを調和させ、共存可能なモデルを見つけるという難題に挑んだ記録。

真実と修復

暴力被害者にとっての謝罪・補償・再発防止策

ジュディス・L・ハーマン＝著、阿部大樹＝訳

定価3740円（本体3400円＋税10%）

みすず書房 ☎03-3814-0131



性被害を生き延びた人たちの声をもとに、被害者側からの視点で何を求めているのかを追及。トラウマ問題のバイブル『心的外傷と回復』に継ぎ、女性の性被害者を中心に描いた本書。覆い隠されがちな構造、被害者が受ける度重なる加害など、見逃されがちな視点に目を開かされる。

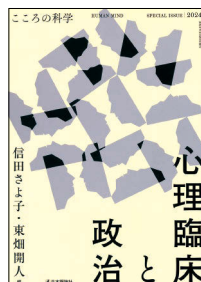
こころの科学 SPECIAL ISSUE 2024

心理臨床と政治

信田さよ子、東畑開人＝編

定価1980円（本体1800円＋税10%）

日本評論社 ☎03-3987-8621



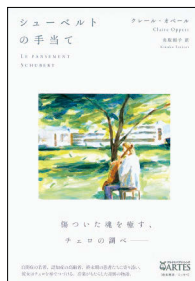
一見、無縁と思いがちな臨床心理と政治。しかし、その時代を生きる人の心が、時の社会と無縁なはずはない。それどころか、そこに大きく依存するといってもいいかもしれない。この“事実”をさまざまな視点から捉えることで、臨床心理を社会の視点から見直す機会が得られる1冊。

シューベルトの手当て

クレール・オバール＝著、鳥取絹子＝訳

定価2640円（本体2400円＋税10%）

アルテスパブリッシング ☎03-6805-2886



著者の妻であるチェロは、重度の自閉症、認知症の高齢者、終末期の患者たちの痛みや憂いを緩和する。薬が心の奥底にはたらきかけることはないが、彼女が奏でる音は、ときに一瞬で人の心に作用するようだ。短い文章で綴られるさまざまな患者との出会いはまるで短編映画を観るよう。

ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』

NHK 100分 de 名著

2024年2月（NHKテキスト）

朱喜哲＝著

定価600円（本体545円＋税10%）

NHK出版 ☎0570-009-321



ローティは「哲学とは『人類の会話』が途絶えることのないよう守るための学問である」と説いた。本書は、彼の著書を4週にわたり読み解いた番組のテキスト。“新しい哲学”を追求した彼の言説には、言葉や会話の重要性を改めて深掘りするためのヒントがちりばめられている。